

### 四国参拝のご案内

四国八十八ヶ所のお参りは三月に愛媛を中心に廻ります。前回のご案内で日程の変更を申し上げましたが、三月十七日から三日間となりました。

ご参加ご希望の方は二月一日星まつり終了を待ってお申し込みをお願いたします。

日 時 三月十七日(月)

十九日(水)二泊三日

宿泊場所

一日目 長珍屋(遍路宿)

二日目 道後プリンスホテル

料 金 (五万五千元)

催行人数 (二十名以内)

なお、二月の玄冬会で前回の参拝のビデオを一〇分ほど予定しております。

また、高野山参拝は五月十四日十五日の予定です。近畿のお寺を回って高野山にお参りします。

### 真言宗の基礎知識(その五十三)

(弘法大師のご入定の後 その七)

先月行われた庭儀護摩法会は、真言宗醍醐派の大本山三寶院を源とする小野流(醍醐三流)の作法に則り、尾道市 北之坊 藤原達祐僧正が大祇師として柴燈護摩の次第を修法され、神道や高野山中院流、金剛流詠歌講などがそれぞれの作法を活かして行われました。

柴燈護摩の作法は高野山中院流ではなく、高野山では室内の護摩が中心でした。柴燈護摩は真言宗醍醐派の僧侶や山伏の方が主体となって行いますが、今回は真言各派の出家在家の方々のご協力を得て庭儀大護摩供として実施されました。

山伏(修験者)の教義には、古来より神道と密教の教えが複合されており、醍醐三寶院を本山とする山伏の方々は今も神仏の名号を唱え、深山に分け入って修行をされています。

四国愛媛県の石鎚山(いしづちやま)は修験者がよく修行に行かれる山ですが、弘法大師がお若い時に修行をされた山で、ふもとの前神寺(四国六十四番)が神宮寺で、横峯寺(四国六〇番)とも深い関係にあります。以前にお参りしたとき、前神寺で大勢の山伏の方が法螺を吹きながらお参りをされていたのを憶えています。四国八十八ヶ所の霊場には高い山に作られた寺院が数多くあり、真言密教の中に高野山などの山や自然への崇敬の気持ちが深く内在しているように思います。

### (後記)

令和七年を迎えました。次第に年月の移ろいを早く感じるようになってきていますが、随分先だと思っていた合祀墓の使用が来年から始まることを知りました。

また、寺横の山の各所に奉安された観音様の石仏が大正から昭和の始めに建立され、ちょうど来年で百回忌になることを知りました。いまは所在が不確かな石仏もあり、本来の山をめぐり参拝する風景は絶えて久しいのですが、建立の時の写真を見れば、その時の熱意が伝わって来るようです。

どちらもお寺の今後の持続可能性からも大事な宝物であり、時代に添って、時を重ねて役割が続かなくてはなりません。

今回、紙面の都合で寄付者の名簿を三月号に延期させていただきました。ご了承願います。

# 上之坊だより

令和7年1月19日  
第105号  
福山市大門町大門325  
電話 (084) 941-1031  
fax (084) 941-1168



令和6年12月28日 庭儀 大護摩供 法会 厳修

## 弘法大師聖語抄

こう ぼう だい し せい ご しょう

良工が材を用いる、

その木を屈せずして家を構う

お大師さまは「腕のある大工は木を見て、木の性質を見極め、むやみにその木を加工したり変形をさせて使うのではなく、木の特性を最大限に活かして使い、何も無駄にしない」と教えています。

最近SDGs(エスディー ジーズ)という言葉がよく使われていますが、無駄を無くして、人や環境に配慮し、優しく安全で、持続可能な経済活動や社会を指しています。

しかし、これは私たちの生活にも言える事で、物を粗末にしたり無駄はないのか、周りの人の能力をしっかりと発揮できるように応援しているか、雑事や物欲に振り回されて大切な自分を見失っていないか、など考えるべきことが多くありそうです。

周りをよく見て、物事の本質を考えて、活かせるものがあれば生かしていきたいと思えます。

### 上之坊 門前整備の進展

前号まででお伝えしていた上之坊山門前の広場の第一期工事が去る一月十日に無事完了いたしました。西側では今までの芝生の参道を楼門まで伸ばして石畳を敷き、南側は塀沿いに石段二段を積み終わりました。今後第二期工事で山中に点在している観音石仏を並べて安置し、石灯籠六基と石柱一对を設置いたします。東南側も第二期工事で余った石を並べます。広場の中央は庭儀の大護摩が焚ける土台の部分を設けて、昨年十二月には最初の庭儀大護摩が焚かれましたが、今後は護摩壇の下の土の除石の為に掘り返しが必要となります。塀前駐車場と庭儀護摩壇周囲の舗装工事も完了いたしました。

今年一月始めに第一期工事の最後の石や砂の移動と整地が行われましたが、今後は一月十九日の総代会と総代世話方で第二期工事の日程や予算等の審議が行われ、その後に第二期工事は二月の星まつりの終了を待って始まる事になると思われます。

昨年五月十日の土工供(地鎮祭)から、六月のご寄付のお願いなどが始まり、今、全工程の八合目付近まで来たと考えております。

一周忌	令和 六年
三回忌	令和 五年
七回忌	令和 元年
十三回忌	平成二五年
十七回忌	平成二一年
二五回忌	平成十三年
三三回忌	平成 五年
五十回忌	昭和五一年

上之坊本堂横、多宝塔との間に納骨堂ができて六年が経過しました。

納骨堂のご利用は、堂内で個別のお預かり期間が七回忌までは十万円、十七回忌まで十五万円、三十三回忌で二十万円、五十回忌で二十五万円となっており、その後は合祀墓で永代のお預かりをいたします。

毎年の維持費などは一切不要で、合祀墓の使用料も含まれての奉納料です。(お名前などを刻んだプレートをご希望の方は別に五万円を奉納願います)

詳しくはご相談をお願いします。

なお、来年末より納骨から七年が過ぎてまいりますので合祀墓へのお骨の改葬が始まります。

### 厄除星祭二月一日 午後一時半

人に良い年と悪い年があるのは、その人が持つて生まれた星とめぐり来る星との位置と関係によって起こると言われています。

星祭りとは年の節目である節分の頃に、その年の当たりの星を奉つて、悪い位置の星の人には悪事や災難を免れるように、また良い位置の星の人には一層良くなるようにと祈る行事で、真言宗では千三百年を越える昔から続いている行事です。

今年も二月一日(土)午後一時半から、護摩(ごま)をたき、節分の厄除けの祈願をいたします。今年の内容を以前の方法に戻して一回だけの開催といたします。大勢の皆様にお越しいただきたいのですが、健康に十分ご留意いただきお参りください。また、福引できる「お供え」については昨年と同様、混雑が予想されますので、あまり長い時間はできませんのでご理解をお願いいたします。

なお、「おふだ」をご希望の方は前日までにお申し込みください。お一人につき三百円です。また、大きなおふだをご希望の方には七百円の金札と千五百円の小木札、三千円の大木札の三種類があります。詳しくは別紙をご覧ください。

今年の厄年は、数え年で、男性は平成十三年生まれの二十五歳、昭和五十九年生まれ、四十二歳、昭和四十年生まれの六十一歳と、女性は平成十九年生まれ、十九歳、平成五年生まれの三十三歳、昭和四十年生まれの六十一歳です。男性の四十二歳と女性の三十三歳を大厄と言ひ、その前後の年を前後厄と言ひます。厄年の方は毎月第四土曜日に護摩祈願もありますのでご利用ください。

### 令和七年お寺の行事予定

二月	一日	厄除星祭り
二月	二三日	玄冬会
三月	十七日	四国巡拝
三月	十九日(愛媛三日間)	
三月	二十日	彼岸勤め
三月	二三日	(四日間)
五月	十日	真明寺例祭
五月	十四日	高野山参拝
五月	十五日	(二日間)
七月	十二日	施餓鬼法会
七月	十三日	お盆勤め
七月	十五日	(三日間)
八月	一日	お盆勤め
八月	十五日	(十五日間)
九月	二一日	彼岸勤め
九月	二三日	(三日間)
十月	下旬	四国巡拝
十一月	月上旬	(香川三日間)
十一月	八日	土砂加持
日程	未定	庭儀大護摩供
十二月	二九日	布薩会
十二月	三一日	除夜の鐘

### 二月玄冬会のご案内

昨年十二月の玄冬会が開催できず、大変御迷惑をおかけいたしました。

この二月には例年通り開催を予定しています。

内容については、四国八ヶ所・阿字観と呼吸法・ふるさと探訪・仏前勤行次第読み解きなどを考えております。

参加費用はお茶代五百円をお願いいたします。

日時は二月二十三日の午後一時半から四時までです。お電話にて前日までにお申し込みをしてください。